

埼玉県知事賞

さいたま市立大砂土中学校 二年 土門 美琴

「納税のラリーを続けよう」

「失礼します。こんにちは。」

このかけ声から私の部活動は始まる。最近三年の先輩が引退して間もない。私は女子卓球部の部長になりたてで、夏休みの部活動は今まで以上に力が入っていた。行動制限のかかった去年と違い、今年は練習日も多くなった。十月に開催される新人体育大会で満足いく結果になるよう張り切っていた。張り切りすぎたせいか、私の右手首は、けんしょう炎になってしまった。

駅前の整形外科へ通院し、レントゲン検査と診察を受け処方せんをもらった。会計は0円。薬局へ行き、その処方せんのおかげでシップと飲み薬を七日分受け取った。ここでも会計は0円。世の中は毎日のように食品値上げのニュースばかりなのに、私は財布を出すこともなく薬を受け取った。感謝しかない。この機会に、私は税について考えてみた。

コロナの影響でなかなか会えなかった優しい祖父母と、この夏久々に会った。お年寄りの医療費は今年十月から一割負担から二割負担へ改定されると知った。私は中学を卒業するまで、医療費は無料のまま。何となく気まずかった。お年寄りよりも子供は優遇されている。学校で習った少子化問題や高齢化社会の問題は、こんな時とても身近に感じる。

医療費だけではない。中学生は税金のおかげで無料が多い。私は歩いて数分の中学校で当たり前のように無料の教科書を持ち帰る。高校生の兄は、春休み前になると電車に乗り、学校指定の本屋で何万円も支払って、教科書を買ってくる。

私が当たり前感じていた無料サービスは、納税者のおかげで成り立っていることに気づいた。納税者一人一人の大切なお金で支えられていることに「ありがとう」と伝えたい。

学費を払わずに楽しくクラスで授業ができる。夏休みでも大好きな卓球を仲間と打ち合える。上手くなるために、いかに長くラリーを続けられるか、相手を思いやりながら練習する。相手が打ちやすい場所に球を返せるかが重要だ。ラリーを続ける練習は、税の仕組みに似ている。税は球であり、ラリーは私達の豊かな生活を続けることと同じだ。球である税が、受け取り手にとって的外れな方向に行っては豊かな生活のラリーは続かない。税もお互いの立場を思いやり、余裕のある人が苦しい人に優しい球を出してあげればいい。卓球の打つ人と打ち返す人は入れ替わる。公共サービスを受けていただけの人も、やがて納税者になる。未来の私だ。私は助ける立場になり、納税の義務を果たしたいと思う。

豊かな生活を続けるために税の仕組みは欠かせない。では、私に何ができるのか。今、私が毎日笑顔で暮らせるのも、公共サービスが充実しているおかげである。豊かな生活のラリーが続くように、今度は大人になる私が支える側になる番だ。支えてくれた方々に恩

返すするためにも納税のラリーを続けよう。